H-14　（個人発表　6月13日(日)15:00～15:25　N331教室）

精霊と結婚しない「男」

ビルマ精霊信仰における夢とセクシュアリティの変容

飯國有佳子（国立民族学博物館外来研究員）

ミャンマー（ビルマ）では国民の7割が上座仏教を信仰しているが、仏教と同時に「ナッ」と呼ばれる精霊に対する土着の信仰も並存して見られる。仏教教義における精霊の位置づけの曖昧さとナッそのものの多様性の結果、精霊への信仰はさまざまな形態をとることが知られているが、そのうち最も洗練されると同時にその中心的役割を果たしているのは、「ナッガドー」（精霊の妻）と呼ばれる霊媒を中心に形成される霊媒カルトといえる。ナッガドーはあまたある精霊のうち特定の精霊を「ガウンズエ・ナッ」と呼ばれる守護霊とし、その精霊との間に婚約式とみなされる「イェーズィンタウッ」（浄水飲み）や、精霊と人間の魂を合わせる「レイッピャーテイッ」（魂鎮め）を実施することによってはじめて正式な霊媒となる。

これまで職業的霊媒については、欲求不満、同性愛、インセスト的傾向等当人のセクシュアリティが守護霊との関係性を決定し、精霊からの招命の証拠としての夢に反映されるというフロイト的分析がなされてきた。しかしこうした分析には、精霊と人の関係性に関する当該社会の文脈を重視しない西欧中心主義的な分析であるということや、静態的で近年の変化―すなわち霊媒の主たる担い手が年配女性から「メインマシャー」（稀少な女性）と呼ばれるトランスジェンダー（TG）男性へと変化していること―を説明できないといった問題点がある。そこで、本発表では精霊からの招命としての夢を、霊媒個人の心理に還元するのではなく社会的な行為として捉えながら、夢が語られる/語られない状況の変化が、精霊信仰という文化的システムにいかなる変容をもたらしているのかを分析する。

変化に関する具体的な分析に入る前に、まず精霊と人の関係性を当該社会の文脈から理解するために、ここではタイの霊媒カルトの分析で用いられる「人-精霊スキーマ」を援用する。ビルマにおいても人間は身体とレイッピャー（魂あるいは生命源）から成り、両者の調和した関係により幸福や健康がもたらされるが、逆にその平衡が失われることによって人は病気や苦悩に苛まれると考えられている。成巫儀礼にみられるように、精霊は人間のレイッピャーに働きかけることで、人や社会関係の平衡関係を破壊したり、生成、回復したりする外部の具体的な力と認識されている。こうした人の身体とレイッピャーの平衡関係は、社会関係の破壊や再生産にまで広く拡大されてきたが、90年代以降の社会主義から市場主義経済への急激な変換やグローバル化の経験は、特に人の流動の激しい都市部において、既存の地域や親族といった各レベルに渡る領域、境界、秩序維持にかかわる儀礼システムを衰微させる一方で、変化の只中でより効果的な適応を模索するための方法として霊媒への依存をもたらすことにもなった。このような状況を背景に、都市部においてTG霊媒が台頭してきたが、その背景にはTGの弟子入りを制限してきた規範の緩和とともに、霊媒に成ることに対するTG側の積極的要因（金になる、踊りや化粧をしたい、社会的地位の上昇）と、女性側の消極的要因（他の収入源の獲得、高学歴化）が存在することが事例から明らかとなった。

上記のようなビルマ社会における変化を踏まえた上で、次に霊媒と守護霊との関係性及び夢による招命についてみていくと、霊媒はその魂の美しさから精霊の寵愛を受けた人々であると考えられており、その多くは霊媒になる以前から夢の中で未来の守護霊となる精霊と性的な関係を含む出会いの経験を持つとされるが、TG霊媒の多くはこうした夢の経験がないと語る。ところが、夢というかたちでの精霊からの招命が少ない一方で、ある女の精霊の神話が新たにTGに関連付けて語られるという変化が見られた。また、霊媒と守護霊の関係についても、従来では女の霊媒は男の精霊の妻に、男の霊媒は女の精霊の夫というように異性愛に基づく夫婦関係を基盤としてきたが、特にTG霊媒は女の精霊との間で親子、キョウダイという関係性を持つことが一般的になっており、従来精霊との結婚式とされてきたレイッピャーテイッを結婚式ではなく、単に霊媒になるための儀礼と捉えていることが明らかとなった。

以上から、人-精霊スキーマに見られる精霊の主体性や神話に見られる異性愛的価値観を是とする文化システムが温存されるなかで生じた女性からTGへという霊媒のマジョリティの変容は、霊媒と守護霊の関係性を変えるとともに、神話の創造という夢を介さない新たな招命経路を確立することで、人-精霊スキーマにおける異性愛的価値観に基づくセクシュアリティの脱構築をもたらしているということができる。

【 夢、セクシュアリティ、トランスジェンダー、精霊信仰、ビルマ（ミャンマー）】